平成２６年度「重点研究費」研究成果報告書

研究課題	美と権力の表象―ルイーゼ・フォン・プロイセンの肖像の研究

研究代表者

氏名	所属	職名
尾関　幸	芸術・スポーツ科学系	准教授

研究分担者

氏名	所属	職名
ベアテ・ミルシュ		
大原　まゆみ	明治学院大学	教授

【研究成果の概要】　（文字の大きさ 9 ポイント・字数 800 字～1600 字程度）

本研究は、西洋美術における肖像表現を手がかりとして、イメージがどのように社会的力の表現として用いられてきたかを分析することを目的とした。

研究手法としては、まず平成 26 年度秋学期の学部・大学院の演習において肖像表現の歴史について学生とともに研究を深め、それの延長に 12 月の講演会を位置づけることとした。

学部授業では「造形美術演習 II, IV, VI」の枠内で、参加者それぞれに西洋美術における著名な肖像表現について調査、口頭発表をさせた。大学院授業においては、テキストに「John A. Walker *Art and Celebrity* Pluto Press 2003」を用い、その第二章「Artists Depicts Celebrities」を購読し、内容分析を進めた。

ドイツにおけるゴットフリート・シャードウ研究の第一人者であるベアテ・ミルシュ博士を迎えての講演会『優雅と美―プロイセンの彫刻におけるシャードウの王女群像とラオホによるルイーゼ像』は、2014 年 12 月 18 日と 19 日の両日に亘って、開催された。12 月 19 日の講演にはコメンテーターとして明治学院大学教授大原まゆみ氏を迎え、ミルシュ氏の講演課題について異なった側面から考察する機会を得た。

ミルシュ氏の講演は、本作品が 18 世紀末のドイツ美術に提起した諸問題の重層的性格について、改めて認識を促した。まず第一に、本作品は宮廷彫刻家による一王族の、衣裳を含めて現実に忠実な肖像彫刻であるが、同時に《クニドスのアフロディテ》という古代美術史上最高峰の作品を範とする古典主義に準じている。第二に、古代彫刻の中でも《サン・イルデフォンソ群像》という、あまり類例のない二重立像の型を継承し、同時に 18 世紀ドイツ文学における友情崇拝を形象化したほぼ最初の例となった。第三に、同時代哲学における重要な概念であった「優雅（優美）＝動きのある、自然な美」が取り上げられ、神話においてはアフロディテと、その従者三美神（三優雅神）という、一対三であった構図が「美と優雅」という一対一対応へと整理され、それによって会い補い合う理想美と自然美のイメージが生まれた。第四に、本作品は古典主義という西洋美術における普遍的原理を奉じながら（彫刻家の真意はともあれ）「古ドイツ」の記憶を呼び覚ます契機ともなり、ドイツにおける国民芸術と古典主義芸術を統合した最初期の作例となった。総じて、肖像と神話、リアリズムとイデアリズムという西洋美術史における普遍的なテーマを、見事な均衡において実現した傑作ということができるのであり、それは、ルイーゼとフリデリーケという、類まれなモデルを得て初めて可能になったとも言える。本作品がドイツ文化におけるルイーゼ崇拝の起点にあって頂点でもある所以である。

18 日の講演は、学芸大学の学生を対象に行われた。予定の時間を大幅に超過し、かつ学部学生を対象とするにはかなり高度な内容ではあったが、講演後には、「ルイーゼとフリデリーケを差別化して表象することで、二人の仲に支障がでなかったのか？」「古典古代と現代を仲介する彫刻作品ということは理解できたが、そこに古ドイツや愛国といった事柄がどのように関係しているのか」「ディズニー映画『アナと雪の女王』の姉妹像は、《公女群像》を発想源にしていると思うが、それについてどう思うか」といった質問が出され、関心の高さが伺えた。同時にそれは、シャードウが創造したイメージが、現代の日本の学生にも訴える、ある種の普遍性ともいうべき力を有していることの証左であるとも思われた。

19 日の明治学院大学における講演後は、大原まゆみ明治学院大学教授による発展的コメントにより、ルイーゼ没後の時代におけるルイーゼ表象と、ヨーロッパ諸国における女性君主のイメージとが比較され、その特質がより鮮明となった。会場から出された質疑も、ヴィクトリア女王や皇妃エリザベート等、19 世紀の女性君主（王族）の表象との比較の視点が中心となった。

研究成果発表方法

［発表論文名（口頭発表を含む），氏名，学会誌等名（投稿中・投稿予定・執筆中）を記入する。］

※本経費を用いて、報告書（冊子等）を作成した場合には、本様式とともに1部を提出すること。
なお、提出された報告書は教育実践研究推進本部を通じて附属図書館へ寄贈する。

1 報告書作成
2 「近代都市と芸術」シリーズのベルリン編『砂上のメトロポール』（2015年5月刊行予定）に、ミルシュ氏の論文を掲載する予定